



日本ペットサミット

どうぶつ達と共に暮らす幸せな社会をつくる会

<ニュースリリース No.7>

2017年1月7日

2月10日(金)、東大で第5回例会を開催

テーマ：なぜネコは伴侶動物となりえたのか？

～進化と対ヒト社会的認知能力からの考察～

日本ペットサミット(略称:J-PETS 西村亮平会長〈東京大学大学院教授 農学生命科学研究科獣医外科学教室〉)は、どうぶつ達と共に暮らす社会をつくるために尽力されている団体や個人の活動を盛り上げていただくために年数回の例会を開催しております。

2017年最初の例会は、齋藤慈子先生(武蔵野大学教育学部児童教育学科 講師)をお招きして、ヒトの伴侶動物として昨今人気急上昇のネコの進化と社会的認知能力を皆さんと一緒に考えたいと思います。

参加費は無料です。定員は先着 50 名です。参加ご希望の方は、フェイスブック(<https://www.facebook.com/japanpetsummit/>)にリンクしている参加専用フォームの欄にご記入し送信してください。また、メール(sakuma@interzoo.co.jp)でのお申し込みもできます。

開催にあたって

イヌとネコは、伴侶動物の双璧であるといっても否定する人はいないでしょう。イヌは最古の家畜といわれ、その長いヒトとの共存の歴史から、ヒトと特別な関係を築いてきたとされます。一方ネコは、ヒトとの共存の歴史も長くはなく、積極的な人為淘汰を受けてきていないため、イヌに比べるとヒトからみて気持ちもわかりづらいし、ヒトのこともわかっていない、と思う方が多いかもしれません。

しかし、ネコとヒトには意外な共通点があります。また、ネコもヒトとの共存の歴史の中で、行動や特性を変化させてきています。さらに近年、イヌの研究に比べれば非常に数は少ないのですが、ネコがヒトのことをどのくらいわかっているのかを実証的に調べた研究も増えつつあり、ネコもヒトのことを意外と(?)わかっていることがわかってきました。

今回の講演では、ネコとヒトの共存の歴史とそれによるネコの行動・特性の進化や、ネコの対ヒト社会的認知能力についての研究を紹介し、なぜ現代、ネコがイヌと並び、ヒトの伴侶動物となっているのかを考えてみたいと思います。

齋藤慈子

武蔵野大学教育学部児童教育学科 講師



日本ペットサミット

どうぶつ達と共に暮らす幸せな社会をつくる会

■第5回例会 概要

開催日時：2017年2月10日（金）18：30～20：30

開催場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール
（東京都文京区弥生1-1-1）

営団地下鉄南北線東大前下車徒歩5分、千代田線根津下車10分

受付開始時間：18：00～

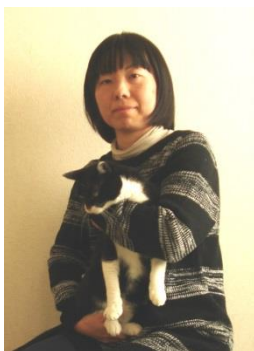
参加費：無料（先着50名）

テーマ：「なぜネコは伴侶動物となりえたのか？～進化と対ヒト社会的認知能力からの考察～」

演者：齋藤慈子先生（武蔵野大学教育学部児童教育学科 講師）

講演終了後、齋藤先生と西村会長との対談+会場からの質疑応答 20：15～20：30

会場までの地図（東大前駅から）



【齋藤慈子 さいとう あつこ先生】プロフィール

2005年、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。

博士（学術）。現在、武蔵野大学教育学部児童教育学科講師。

著書に『飼い猫のココロがわかる 猫の心理』（西東社）など。

【問い合わせ先】

日本ペットサミット (<http://www.j-pets.jp>) 事務局代行 株式会社インターズー 担当：佐久間

TEL:03-6407-9690 FAX:03-6407-9375 /E-mail : sakuma@interzoo.co.jp

〒150-0062 東京都渋谷区元代々木町 33-8 元代々木サンサンビル 2F